たかが、たかまち。

■土佐市入口 ★たかが・たかまち・たかしろ（高岡郡）

日本一の、お城下市。

高知城の追手門からすぐ東へ延びる南国情緒満点のメインストリート。日曜市は、その片側の車線を埋めつくし開かれます。全国にさまざまな街路市がありますが、終日路上で開かれる市としては日本一の規模を誇ります。土佐の名殿様が定めた、市立に始まり、庶民の生活市として、300年以上もの長い歴史を生き抜いてきました。人口30万人余りの地方都市、その規模、歴史共にほとんどのスケールを誇る街路市。ぜひ、ご覧ください。うてまいりのおんちゃん、おばちゃんたちの夢と笑顔、情熱をいっぱいに、今日も約1万2千人の人が集まります。

sunday market history

日曜市の今昔

江戸時代、元禄3年に、土佐の殿様が定めた街路市。

▲明治時代の日曜市（本町1～2丁目）。現在の電車通りに立つ日曜市の風景で、現存する市の写真では、最も古いものです。

【「路市の歴史」】

山内氏が土佐に入国した江戸時代の元禄3年（1690年）に、当時の城下町の中心地であった追手門前で、山内豊昌公が、藩の政策として場所と取扱品を定めて商売を認めたことが、日曜市の始まりとされています。山内豊昌公が元禄3年3月に病死した後、民政の大幅な変革があり、山内豊昌公の遺志により、山内豊昌公の命日である毎月3日を定めて、城下の足軽屋敷の一部を土佐藩に対する献上品として、「市立」を許可したことが、日曜市の始まりとされています。「市立」とは、「市」を開いてもよいという公開状のことです。

現在のような「呼び売り」となったのは、明治9年（1876年）のことでいわゆる「殖産興業」政策の一環として、高知県令（知事）の大隅重信が、「市立」を許可した日曜市の中で、「呼び売り」を奨励したことが、日曜市の発展のきっかけとなったとされています。

日曜市は、「呼び売り」の場所として、当時の城下町の中心であった追手門前から、現在の電車通りに立つ日曜市の風景で、現存する市の写真では、最も古いものです。

街のあちこちに市が立つ 土佐の街路市

6時頃から14時頃まで。ふだん着の土佐に出会えます。

●場所:上町4～5丁目 ●出店数:15店

高知市の中心部を東西に走る電車通り。その上町4丁目から一つ南に入った通りに火曜市が並びます。この通りには幅2mほどの水路が東西に流れており、この水路に戸板を渡して店を出します。買い物とともに、周りの歴史ある風情も楽しめます。

●場所:県庁前 ●出店数:63店

電車通りと高知県庁からの南北道が交差する「県庁前」。そこから南へと木曜市が並びます。県庁や市役所の営庁とファミリーが立ち並ぶ好立地から、日曜市に次いで人気が高く、手軽な昼食や晩ご飯の食材を買い込んだりする姿も見られます。

●場所:愛宕町1丁目 ●出店数:13店

愛宕商店街の南北の通りを北へ向かうと、前方を東西に横切る JR の高架が見えてきます。金曜市は、この高架下に店が並びます。古い住宅地に隠れていることもあり、買い物客の多くは地域の住民で、出店者と長い時を重ねた絆でしっかり結ばれています。

日曜市でてくて見て歩きMAP

日曜市開催日…毎週日曜日
6時頃から14時頃まで
※1月1・2日、8月13～12日は休み

日曜市へのアクセスは路面電車が便利。日曜市を楽しんだ後は、周辺の観光名所も楽しんでね。

N
トイレ
車椅子トイレ
公共駐車場
駐車場
史跡
日曜・休日は一方通行
高知城
追手門
城西公園
秋月門
鏡石夫人ふるさとセンター
高知県庁西庁舎
高知県立歴史民俗資料館
高知県立文学館
高知県立美術館
高知県立図書館
高知県立追手前高等学校
高知県立中央高等学校
高知県立丸の内高等学校
高知県立追手前高等学校
高知県立高知工業高等学校
高知県立高知追手前高等学校
高知県立高知小津高等学校
高知県立高知北高等学校
高知県立高知東高等学校
高知県立高知南高等学校
高知県立高知西高等学校
高知県立高知中央高等学校
高知県立高知丸の内高等学校
高知県立高知